

**大雪山国立公園東大雪地域登山道維持管理部会準備会
(オンラインによる話し合い) 概要**

日 時：令和2年6月5日(金) 13:30～15:00

方 法：ウェブ会議サービス「WebEx」(環境省アカウント)を利用して実施

出席者：以下の表のとおり(敬称略)

オンラインで参加	
鹿追町商工観光課	課長補佐 大西 亮一 観光振興係主任 牧野 裕晃
新得町産業課	観光振興係長 乙井 逸人
NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター	代表理事 河田 充
合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊	代表社員 岡崎 哲三 下條 典子
新得山岳会	会長 小西 則幸 (※新得町役場から参加)
大雪山国立公園パークボランティア連絡会	会長 黒田 忠 (※機器トラブルのため途中参加)
株式会社北海道ネイチャーセンター(オブザーバー)	チーフマネージャー 石川 昇司
上士幌管理官事務所にて参加	
大雪山国立公園管理事務所(事務局)	国立公園保護管理企画官 梶 厚生
大雪山国立公園管理事務所 上士幌管理官事務所(事務局)	国立公園管理官 橋口 峻也 自然保護官補佐 上村 哲也
北海道十勝総合振興局環境生活課	自然環境係主事 村上 桐生

1. 開会

■上士幌管理官事務所

今回は登山道維持管理部会の準備会として開催。新型コロナウイルス感染拡大を踏まえて、大雪山国立公園の登山について何をすべきか、今後どうしていくべきなのか、みなさんからご意見をいただきたい。参加可能な方のみ集まっているので、合意形成をする場ではないことが前提。可能な範囲で意見をいただき、結果を事務局でとりまとめて、欠席者も含めて全員に共有する。事務局が主体となって進める取組については、メーリングリストで共有して随時意見をいただきながら、順応的に進めていきたい。

2. 議事

(1) アンケートの実施結果について(本年度の各団体活動内容の情報共有を含む)

資料に沿って上士幌管理官事務所より説明。各団体からの発言は以下のとおり。

■NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター

当団体の事業は、ガイド業が中心となっているが、北海道の緊急事態宣言が発出された3月以降はほとんど活動していない状況。主要ツアーとしてタウシュベツ川橋梁の見学があるが、6月18日まで北海道の外出自粛要請期間(※事務局補足:実際には都府県・札幌との不要不急の往来は慎重に対応する期間とされている)ため、橋梁を見学するための林道の通行許可が6月22日以降しか出せないと森林管理署から聞いている。(※事務局補足:石狩岳登山口への林道入口ゲートは6月5日に開錠となった。)

登山道維持管理関係の作業は予定どおり進める。石狩岳～ユニ石狩岳・ニペソツ山のササ刈り、ユニ石狩岳登山口～音更山の道標設置、ニペソツ山携帯トイレブースの更新(資材費:セブンイレブン補助金採択済み、人件費:環境省補助金誘客推進事業申請中)を予定。

新型コロナウイルスに関する情報発信については、混雑する場所、トイレの状況について発信が重要。医療機関を圧迫してはいけないという世間の風潮があるので、天候の悪いときには道迷い防止の注意喚起が必要。宿泊施設を利用せず、少人数・個人の登山者による車中泊やテント泊が増えると思われる。トイレにおける消毒は個人で徹底してもらうようお願いするしかない。

収束後、観光地は生き残りになる。仕事でどこまで人を呼び戻せるか。登山道整備などの現場を支えている個人ガイドは非常に厳しい状況。オフシーズンは農業などで生計を立てているが、耐えられるのも1年以内だと思うので、助け合えるよう行政でも考えてほしい。環境省補助金の誘客事業もポストコロナでツアーを実施することが申請の要件となっているが、実際にはツアー実施までには至らない可能性もあるため、そうした場合には配慮してほしい。

■鹿追町

自然の中で活動するのが安全という認識があるのか、キャンプ場に関する問い合わせも増えていて、アウトドアが活発になると思われる。新型コロナウイルスの感染を広めないのも重要だが、今後、地域内で感染者が出た場合の対応も事前に検討しておく必要がある。

■新得町

草刈り等、例年どおり事業を進める予定。登山者が来ないようにするのは難しいので、利用者が各自で対策してもらうよう発信したい。トムラウシ温泉東大雪荘は6月末まで休館、7月から営業再開の予定。

■十勝総合振興局

トイレが最も大きい問題だと考えている。ヒサゴ沼避難小屋・トイレを閉鎖するかどうかが新聞社から問い合わせがあったが、緊急時に利用する場所なので、閉鎖することは想定していない。携帯トイレブースとトムラウシ山短縮登山口のバイオトイレも感染リスクが懸念されるが、これらを閉鎖すると山岳環境の悪化が懸念されるため、例年どおり開設する予定。登山者自身に感染を予防する対策を講じるようお願いするしかないと考えている。

■株式会社北海道ネイチャーセンター

然別湖周辺はすでに登山シーズンが始まっているが、利用者が多く見られる。今年は登山者が増えるのではないかと思う。

■合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊

個人ガイドやアルバイトをしている方と経営者との認識がずれていると感じる。(経営者には補助金等の支援や対策がある一方、)アルバイトの方はかなり仕事が減っていて、相談が寄せられる。山は様々な方が関わることで成り立っていて、中には仕事がないから大雪山にももう来られないという方もいるので、そのような方のことも頭に入れながら話し合っていくべき。

白雲岳避難小屋の管理を担当することになった。facebook等で情報発信していくので、よろしく願いしたい。

■新得山岳会

感染リスクを減らしながら個人の責任で行動するしかないので、施設管理者側に感染対策をそこまで厳重に求めることはないのではと考えている。

(2) 大雪山国立公園における新型コロナウイルス関連の情報発信について

資料に沿って上士幌管理官事務所・大雪山国立公園管理事務所より説明。各団体からの発言は以下のとおり。

■新得山岳会

前泊・後泊するトムラウシ温泉東大雪荘と、南沼での野営が少し心配なくらい。トムラウシ山頂も広くはないが密集の心配はあまりない。

■新得町

トムラウシ温泉東大雪荘では、営業再開した後は感染対策を講じる予定。

■合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊

黒岳～旭岳のイメージ図をもとに話をする。まず中岳温泉の感染リスクの注意喚起については、すべての温泉に当てはまってしまい影響もあるので削除したほうがよい。山頂については、登山者が自ら離れようとするので、書かなくてよいのでは。特に密集が心配される小屋やロープウェイが中心でよいと思う。各場所がどのような状況が想像できれば、登山者が自ら判断するので、写真があったほうがよい。混雑状況やトイレの様子が可視化されていれば、登山者が判断できる。

■大雪山国立公園管理事務所

現場が具体的にどのような状況になっているか事実を客観的に提示することで、登山者自身が感染リスクを回避する行動を自然にとるように促すことが重要だという意見と理解した。中岳温泉の記述は削除する。

■合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊

ヒグマ情報センターの管理を担当しているが、紅葉時期は人が密集するので、紅葉前の早いうちから例年の混雑状況を発信して、利用者に想像してもらえようようにしたい。

■NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター

林道の通行止めマークが表示されていない場所があるので、修正が必要。

ピクトグラムもよいが、「山頂が狭い」といった文字で書くのでもよいのではないか。

手洗い意識が高まっているので、水場で石鹸を使用する人が増えると環境負荷が心配。除菌シートやアルコール消毒液などを使用してもらえるとよい。

■上士幌管理官事務所

施設管理者が石鹸や消毒液を常設できる施設も少ないと思うので、登山者自身で用意してもらおうよう大雪山全体で発信するのがよい。

■株式会社北海道ネイチャーセンター

東ヌプカウシヌプリも最近登山者が増えていて、登山道外に立ち入る人も多く、登山者どうしが離れようとすることで踏み荒らしが広がることも心配なので、注意喚起が必要かもしれない。

■鹿追町

何度も来ている人は現地の状況がわかるが、初めて来る人も増えると思うので、写真を載せて状況がわかりやすくしたほうがよいと感じた。

■十勝総合振興局

避難小屋は緊急時に使用するものなので、避難小屋の利用を前提とした登山は控えるよう北海道庁から発信している。問い合わせ等あった場合には、テント泊を前提とした登山を計画するよう伝えてほしい。

■大雪山国立公園パークボランティア連絡会（※ここから途中参加）

パークボランティア連絡会でも、「3密」を回避するよう注意しながら活動し、一般の方にも広報していきたいと考えている。

東大雪地域だと、トムラウシ山登山口や南沼野営指定地では登山者が密になることが心配なので、発信していくとよい。

■合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊

大雪山連絡協議会だけで発信しても見る人が少ないので、ほかの発信媒体にも載せてもらえるよう積極的に働きかけていくべき。せっかく話し合っても、効果が上がらないのでは意味がない。各避難小屋の状況も、個別に確認しなければわからないのではなく、大雪山全体について一目でわかるようにしておくべき。要は、広報の方法を工夫することが重要。

（3）登山道維持管理作業実施手順マニュアルについて（本年度の運用方針のお知らせ）

資料に沿って大雪山国立公園管理事務所より説明。

■上士幌管理官事務所

東大雪地域の場合、登山道の管理者が存在する（事業執行されている）区間が少なく、トムラウシ山・大雪山縦走線・天望山周回線くらいしか大がかりな補修

ができないため、マニュアルを運用した補修ができていない状況。

ササ刈りなどの軽微な補修は従来どおり報告だけでかまわないが、たとえば水切りの整備のような少し大がかりな登山道補修をしたいと考えている方がいたら、ひとまず事務局までご相談いただきたい。

3. ウェブ会議に参加した感想

■十勝総合振興局

今年4月から公園管理を担当しているので、直接関わっている方の声を聞けて貴重だった。新型コロナウイルス収束後は対面で会議ができるとよいが、それまではオンラインでも会議を続けていくことは必要だと感じた。

■鹿追町

対面で集まるのは難しい状況の中、オンラインでの会議は有効だと感じた。関係者が広範囲から集まるので、対面で話す必要があるものについては対面で行うこととし、新型コロナウイルス収束後もウェブ会議を中心にしていけるとよい。ウェブ会議を繰り返していくうちに慣れて、円滑に実施することができると思う。

■新得町

ウェブ会議は新鮮だった。普段の会議より発言する機会が多くてよかった。

■新得山岳会

時間どおりに会議が終わってよかった。6月9日に新得警察署と新得町役場と合同で、トムラウシ山の道迷い防止の紅石灰撒きを行う。登山者が来る前提で、できる準備をやっていく。

■NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター

どこに行くにも往復1～2時間以上はかかるので、移動時間が省略でき、自分の事務所から参加できたこともよかった。今まで以上に資料に目を通して予習するモチベーションがあった。

今年は、登山者はネットや電話問い合わせ等で事前に十分調べてから来ると思う。オンライン環境がない登山者も多いので、電話対応を行う各自治体の観光協会などとも対応内容を統一できるよう、大雪山国立公園連絡協議会から指針を示し、平準化できるとよい。

■合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊

帯広や新得まで片道2～3時間かかり、移動が大変なので、ウェブ会議はよかった。札幌在住者も参加できる機会が増えると思うので、これからもウェブ会議を続けてほしい。

メーリングリストの使い方のルールがまだ提示されていないと思う。管理する施設で何か起きたときに関係者へ周知する際などにメーリングリストを活用できるように、使用ルールがあるとありがたい。

■大雪山国立公園管理事務所・上士幌管理官事務所

事務局だけでなく登山道維持管理部会参加者からも情報発信してもらえよう、メーリングリストの使用ルールを検討する。参加者側からどのような情報が発信できるか、想定される具体例がわかるようなルールを定められればと思う。

■株式会社北海道ネイチャーセンター

今回、会議の映像・音声は問題なく受信できたが、自分側の映像をうまく配信できなかったのもので、次回までに練習しておく。

■大雪山国立公園パークボランティア連絡会

昨夜の落雷の影響か、途中までうまく接続できなかったが、次回からは問題なく参加できると思う。

4. 閉会

■上士幌管理官事務所

会議直前に、ニペソツ山と石狩岳・ユニ石狩岳の各登山口への林道ゲートを開けたと森林事務所から情報提供があった。その他の通行止めとなっている林道については昨年度と同じ状況だと思われるが、新たな情報があった場合には共有する。

今回いただいた意見についても、後日とりまとめて共有する。今後もオンラインによる会議を実施していきたいと思うので、引き続きよろしく願いたい。

以 上